



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和 5 年春季版

(令和 5 年 5 月 15 日)

※ 学生・生徒の学年は取材時
(大会時) です。

全日本卓球 ジュニア男子で萩原啓至が初 V

東京体育館で 1 月 23 ～ 29 日に開催された全日本卓球選手権大会で、萩原啓至（高校 2 年）がジュニア男子シングルス初優勝を飾りました。同種目で坂井雄飛（高校 1 年）と吉山和希（中学 3 年）が 3 位入賞するなど、今年の中日本でも学園の選手たちが優秀な成績を収めました。



ジュニア優勝の萩原啓至

学園の 3 選手がベスト 4 に名乗りを上げたジュニア男子シングルスは、坂井との同士討ちを 3-2 で制した萩原が、優勝候補と目される松島輝空選手（木下アカデミー）と決勝で対戦。フルゲームの熱戦の末にジュースに持ち込んだ最終ゲーム、豪快にフォアハンドドライブを決めて決勝点をもぎ取りました。

学園の選手たちは、男子シングルスで篠塚大登（大学 1 年）が 3 位、吉山僚一（高校 3 年）と田中佑汰（大学 4 年）がベスト 8。学園出身の曾根翔選手（T.T 彩たま）も 3 位入賞しました。混合ダブルスでは田中佑汰が姉の田中千秋選手（豊田自動織機）とペアを組み、準優勝しました。



男子 3 位の篠塚大登



混合ダブルス準優勝の田中ペア（写真はいずれもニッタクニュース提供）

このほか、男子ダブルスで横谷晟（大学 2 年）・谷垣佑真（大学 1 年）組がベスト 8、混合ダブルスで谷垣佑真・岡田琴菜（大学 2 年）組と篠塚大登（JOC エリートアカデミーの木原美悠選手とペア）がベスト 8 の成績を収めました。

中高卓球部を学園表彰

学園は 1 月 30 日、インタハイなど令和 4 年度の全国大会や国際大会で優勝を飾った高校・中学卓球部に対して学園表彰を行い、快挙をたたえました。名古屋電気学園愛名会と高校同窓会からもお祝いがありました。

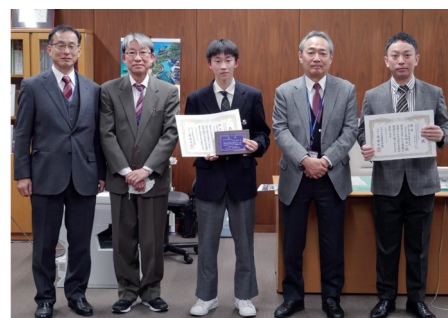
表彰は高校の校長室で行い、後藤泰之理事長らから選手と指導者に賞状などを手渡しました。後藤理事長は「ほかの選手たちより一滴でも多く汗をかき、その積み重ねが成果となった。さらなる上を目指してほしい」と激励しました。これにこたえて選手たちが「今の結果に満足せず頑張っていきたい」などとお礼を述べ、今枝一郎高校卓球部監督が「連覇を続けているとはいえ厳しい戦いばかり。チーム名電として戦っていきたい」、真田浩二中学卓球部監督が「(卓球界の) 若返りが急速に進み、ここにいる選手たちも数年が勝負。毎日精進していきます」と、それぞれ活躍を誓いました。

学園表彰の対象となった大会・選手は次の通りです。

全国高校総合体育大会卓球競技（7 月 30 日～8 月 3 日・愛媛県宇和島市）男子学校対抗優勝、男子シングルス優勝・鈴木颯（高校 3 年）、男子ダブルス優勝・鈴木颯／萩原啓至（高校 2 年）▽アジアジュニア・カデット選手権ビエンチャン大会（9 月 1～6 日・ラオス）U-19 男子ダブルス優勝・坂井雄飛（高校 1 年）▽JOC ジュニアオリンピック全日本卓球選手権大会カデットの部 14 歳以下男子シングルス優勝・持田陽向（中学 2 年）



高校卓球部



中学卓球部

卓球世界ユース選手権で団体銅メダル、学園3選手が準優勝

12月4～11日にチュニジアで開催された ITTF 世界ユース選手権チュニス大会に学園の4選手が出場し、団体戦3位、個人戦準優勝など優秀な成績を収めました。



鈴木颯

団体のメダルを獲得したのは、中学の吉山和希（3年）と持田陽向（2年）が出場した15歳以下男子団体戦。準決勝で優勝チームとなる中国と対戦し、1番の吉山が勝利しましたが、後が続かず1-3で敗れ、3位となりました。高校の鈴木颯（3年）と吉山僚一（3年）が出場した19歳以下男子団体戦は、準々決勝でフランスに敗れベスト8でした。

個人戦では3選手が準優勝しました。15歳以下男子シングルの吉山和希、19歳以下男子ダブルスでベルギーの選手と組んだ鈴木颯、15歳以下男子ダブルスで谷本拓海選手（神戸市立兵庫庫中学）と組んだ吉山和希です。このほか、鈴木颯は19歳以下混合ダブルス、吉山和希は15歳以下混合ダブルスで、それぞれベスト8の成績を収めました。



吉山僚一



持田陽向



吉山和希
(写真はいずれも ITTF 提供)

高校フェンシング部を学園表彰

学園は3月15日、第30回 JOC ジュニアオリンピックカップフェンシング大会（1月5～8日・東京都駒沢オリンピック公園体育館）のカデ女子サーブルで金高生幸（高校1年）が優勝を飾った高校フェンシング部に対し、学園表彰を行って栄誉をたたえました。愛名会と高校同窓会からもお祝いがありました。

同大会で名電高校・中学の選手たちは、カデ女子サーブル優勝の金高がジュニア女子サーブルでも準優勝したほか、ジュニア男子エペの弓長昇主（高校3年）とカデ男子フルーレの林川琉偉（高校1年）がそれぞれ準優勝するなど、優秀な成績を収めました。学園表彰は高校で行われ、後藤泰之理事長が賞状などを手渡して「世界に向かって飛躍してほしい」と激励しました。これにこたえ、金高と富田弘樹監督が今後の国際大会やインターハイでの活躍を誓いました。

林川、金高ら世界の舞台で活躍

3月にウズベキスタンのタシケントで開催されたアジアジュニアカデフェンシング選手権大会に、学園から林川琉偉（高校1年）、金高生幸（高校1年）、奥井 咲之祐（中学3年）の3選手が出場。林川は団体戦カデ男子フルーレで銀メダルを獲得したほか、個人戦でもカデ男子フルーレで銅メダルを獲得しました。金高は団体戦ジュニア女子サーブルで銅メダルを獲得したほか、団体戦カデ女子サーブルにも日本の一員として出場し5位の成績を収めました。

金高は4月にブルガリアで開催の世界ジュニア・カデ選手権の日本代表に選ばれました。



後藤理事長、金高選手と指導者ら

高校吹奏楽部を学園表彰

学園は12月13日、第70回全日本吹奏楽コンクール（10月23日・名古屋国際会議場）で金賞に輝いた高校吹奏楽部に対し、学園表彰を行いました。名古屋電気学園愛名会、高校同窓会からもお祝いがありました。

44回目の出場（高校部門全国最多）を果たした今大会では、自由曲に選んだ「森の贈り物」で光と命に満ちあふれる森の情景を瑞々しく演奏し、会場を大きな感動に包みました。

3年生部員は、世の中がコロナ禍に巻き込まれた2020年春の入学です。練習や活動が最初から思うに任せない中、工夫と努力を重ねてそれぞれの音を磨き上げました。表彰は、南校舎の多目的ホールで行い、荻原哲哉校長が「3年分の思いがこもった演奏でした」と部員たちの努力をたたえました。

これにこたえ、伊藤宏樹顧問が「緊張の中、子供たちは『最後の演奏をみんなで楽しもう』という雰囲気を出していました。これも勉強と部活の両立ができる素晴らしい環境があったからです」と、お礼を述べました。部長の武藤りささん（3年）も「全国大会がゴールでなく、最後の定期演奏会まで頑張っていきたい」と笑顔で誓いました。

この後、後藤泰之理事長から届いたサプライズプレゼントの幕が除かれました。大会当日に撮影した記念写真をプリントした特大のケーキで、部員たちから「わーっ」と歓声が上がりました。



サプライズプレゼントのケーキを囲んで笑顔の生徒ら



全日本吹奏楽コンクールでの演奏

高校吹奏楽部の第58回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第58回定期演奏会が、1月7日夜と8日昼・夜の3公演体制により、名古屋国際会議場センチュリーホールで開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹顧問らの指揮による全4部構成。3公演ごとに、少しずつ変化を持たせて名電サウンドを届け、延べ6500人の聴衆を魅了しました。

8日昼の公演は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、全日本マーチングコンテスト銀賞受賞チームによる勇壮なステージドリルで幕開け。金賞に輝いた全日本吹奏楽コンクール



感動を届けた第58回定期演奏会

での課題曲Ⅲ「ジェネシス」、自由曲「森の贈り物」や、手作りミュージカル「リメンバー・ミー」、スタジオジブリメドレーなどを次々と披露しました。同公演には、著名な作曲家の鈴木英史氏が客演指揮に訪れ、自曲「ジェネシス」などでタクトを振ったほか、編曲を手掛けた『『ローマの松』よりアッピア街道の松』ではオルガンで賛助出演しました。

引退のステージを迎えた3年生をはじめ、先輩から後輩へ「絆」のサウンドを受け継ぐ200人の部員たちは、一曲一曲に思いを込めて演奏を届け、会場は深い感動の拍手に包まれました。

競技スキー部の柳本が世界選手権で日本勢最高成績

フリースタイルスキー世界選手権(2月25～26日、ジョージア・バクリアニ)に出場した競技スキー部の柳本理乃(4年)が、モーグルで表彰台まであと一步の4位、デュアルモーグルで7位と、いずれも日本勢最高の成績を収めました。25日のモーグルでは、3位と僅差で表彰台を逃したものの、決勝の1、2回とも全体1位となるエアの得点をマークするという堂々たる滑りを披露しました。



世界選手権の滑り

柳本は、12月に開幕した今季のワールドカップ初戦(フィンランド)で8位に入賞したのを皮切りに、2月までのワールドカップ10戦全て10位以内の成績を収め、2月4日のアメリカ大会では今季最高の4位に入賞しました。この結果を受け、初の世界選手権代表に選ばれました。

学園は3月23日、柳本が所属する大学競技スキー部に対して学園表彰を行い、快挙を祝いました。名古屋電気学園愛名会からもお祝いがありました。表彰は八草キャンパ



後藤理事長と学園表彰を受けた柳本選手ら

ス本部棟で行われ、この日に卒業式を終えた柳本と同部の西裕之監督に後藤泰之理事長から賞状などが手渡されました。

後藤理事長から「この経験を生かし、一つでもいい成績を上げてほしい」と励まされた柳本は、在学中に受けた支援に感謝を述べたうえで「2026年のオリンピックでは表彰台に立てるように頑張ります」と誓いました。

柳本は1年生の時に秋田県で開催されたワールドカップで5位に入賞し、世界への扉をこじ開けました。昨季ワールドカップでは初の表彰台に上り、北京2022冬季オリンピック出場へあと一步まで迫りました。学園表彰で、西監督は「五輪出場を逃した悔しさをばねに世界選手権の代表に選ばれ、良い形で大学生活を終えることができました」と教え子の努力をたたえました。

春高バレーに18回目の出場

高校バレーボール部は、春の高校バレー愛知県予選決勝(1月23日)で大同大学大同高校にセットカウント3-1で勝利し、3年ぶり18回目の本戦出場を決めました。1月4日から東京体育館で開催された第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会(春の高校バレー)では、2回戦で長崎県代表の大村工業高校と対戦し、セットカウント1-2(25-21、25-27、21-25)で惜敗しました。

大会を振り返り、北川祐介監督は「けがで中心選手が欠場する中、3年生を中心によくまとまり、全国屈指の強豪校である大村工業高校を相手に名電らしい粘り強いバレーを展開しましたが、あと一步のところで勝利を逃しました。生徒・保護者・教職員をはじめ、学園関係者の方々の多大なるご声援に感謝いたします。次の大会からは新チームとなります。新チームでも全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励みます」と話しています。



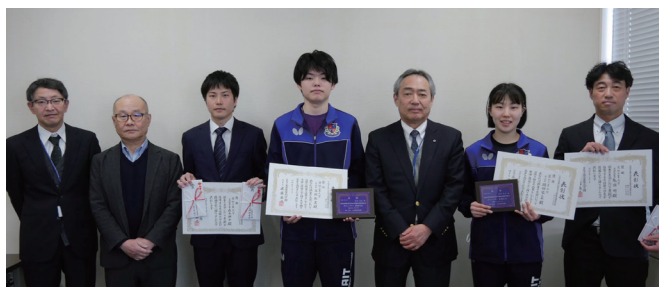
全日学選抜アベック優勝 大学卓球部を学園表彰

第18回全日本学生選抜卓球選手権大会＝全日学選抜＝（11月26～27日・北海道の苫小牧市総合体育館）で、本学卓球部がアベック優勝を飾りました。男子は谷垣佑真（1年）、女子は岡田琴菜（2年）が、ともに初優勝しました。

全日学選抜は、全日学の個人・団体と並び、大学卓球の頂点を決めるシングルスのみでの大会です。男子は、強豪・明治大の2選手らを倒して勝ち上がった谷垣が、決勝で明治大の松田歩真選手と対戦。勢いのまま4－0でストレート勝ちしました。女子は、全日学3位の岡田が、決勝で全日学王者の黒野葵衣選手（早稲田大）と対戦し、4－1で勝利しました。このほかにも、女子で本学の大川真実（2年）が3位、信田ことみ（3年）が4位に入るなど、好成績を収めました。

学園は3月2日、大学卓球部に対して学園表彰を行って努力をたたえました。愛名会からもお祝いがありました。

後藤泰之理事長が谷垣・岡田両選手と鬼頭明総監督、森本耕平監督に賞状などを手渡しました。後藤理事長が「来年度に向け、またしっかり練習を積んで」と激励したのにこたえ、谷垣・岡田両選手は「この結果に満足せず、今後も頑張っていきます」「日々ご指導いただいている監督やチームメート、応援してくださる皆様の力です」とお礼の言葉を述べました。鬼頭総監督も「大会1か月前の全日学でベスト8だった谷垣と3位の岡田が、リベンジを果たしてくれました。谷垣は1年生、岡田もまだ2年生で、これから成長してくれると思いますので、サポートすべく頑張っていきます」と今後ますますの活躍を誓いました。



後藤理事長を囲んで選手・監督ら



2連覇の競技スキー部



林田



野口

競技スキー部が中部日本学生スキー総合2連覇

第68回中部日本学生スキー選手権大会が3月3～5日に白馬岩岳スノーフィールドおよび白馬クロスカントリー競技場（スノーハープ）で開催され、大学競技スキー部が男子総合2連覇を達成しました。

中部地区8大学の60選手が参加し、アルペンとクロスカントリーのそれぞれ3種目で競いました。クロスカントリーで主将の林田直樹（経営学科3年）が2種目優勝したほか、アルペンでは野口幸太郎（経営学科2年）がスーパー大回転で優勝するなど、全6種目すべて入賞し、2年連続の総合優勝へとつなげました。

選抜卓球大会は中高ともに準優勝

3月に開催された卓球の全国選抜大会で、名電高校・中学の卓球部がいずれも準優勝しました。名電高校は8連覇、名電中学は3連覇を目指して大会に臨み、どちらもあと一步の差で王座を譲る形となりました。

第50回全国高校選抜卓球大会は3月25～27日、豊田市のスカイホール豊田で開催されました。決勝の相手は、5大会連続で同一カードとなる山口県の野田学園です。名電は、1番の萩原啓至（2年）と3番ダブルスの中村煌和（2年）／萩原が勝利。試合は2台同時で進行し、野田学園に追いつかれて2対2のタイに並んだ時点で、王座の行方は対戦中の4番中村に委ねられました。

中村と相手の芝拓人選手は互いにゲームを取り合い、最終の第5ゲームに突入。中村は先にマッチポイントを抑えられた後、果敢に4連続得点して11－10と逆転しました。両者一步も譲らない激戦の末、惜しくも13－11で勝利を逃しました。

一方、第24回全国中学選抜卓球大会は3月25～26日、宮城県のセキスイハイムスーパーアリーナで開催されました。中学卓球部も、決勝でライバル校の野田学園と対戦。1番の持田陽向（2年）と3番ダブルスの郡司景斗（1年）／月原弘暉（1年）が勝利して2対2のタイにもつれ込みましたが、最後は野田学園に勝ちを譲りました。



準優勝の表彰を受ける高校卓球部

全国高等学校文化連盟将棋新人大会で準優勝

山梨県昭和町で2月9～11日に開催された第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会に、高校将棋部の岡村真秀さん（1年）と緒方惟月さん（2年）が出場。女子は全国から87人の都道府県代表が集った中で、岡村さんが準優勝、緒方さんがベスト16の成績を収めました。

機械学科4年の井川峻吾さんが囲碁のプロ棋士に



大学機械学科4年の井川峻吾さん（囲碁・将棋部所属）＝写真＝が囲碁の棋士採用試験で1位合格を果たし、卒業後はプロ棋士として活動します。本学在学中のプロ棋士合格は井川さんが初めてとみられます。

井川さんが囲碁を始めたのは小学5年からと比較的遅く、1位のみ合格できる年1回の中部総本部棋士採用試験に中学2年から挑み続けてきましたが、前々年は1勝差で2位に終わるなど、狭き門を突破できずにいました。受験には22歳までの年齢制限があるため、今年が挑戦できる最後の年。「就活を考えもしましたが、やはり悔いのない人生を送りたいので」と、プロ志望一本に覚悟を決めて準備を進めました。

9月の予選を余裕を持って2位で通過し、10～11月の本戦に臨みました。全14回の対局中、早い段階で3敗し、「これで逆に緊張がほぐれたようです」と、そのあと負け知らずの8連勝。11勝3敗の1位でプロ棋士の夢をかなえました。令和5年度に棋士となる全国の新入段者は5人で、井川さんのほかは

全員が11～16歳の10代。最年長ながら「何より好きなことを仕事にできるのだから、楽しもうと思います」と、若々しく抱負を語ってくれました。

高校情報システム部開発のアプリが一般公開の栄誉

ペットロボットの「aibo」と遊ぶアプリを開発する高校生エンジニア体験（ソニー教育財団主催）に、高校情報システム部のチームが参加し、作品が最優秀の評価を受けて一般公開の栄誉に浴しました。

aiboは、ソニーが開発した犬の外見を持つ自律型エンタテインメントロボットです。現在発売されている新型は人工知能を搭載し、アマゾン ウェブ サービス（AWS）が提供するクラウドコンピューティングサービスを活用して「犬型ロボットから個性が育つ愛犬へ」と進化しています。

高校生のエンジニア体験は、ソニー教育財団が2018年から実施。参加校はそれぞれ4人でチームを組み、ソニーグループのaibo開発チームの指導・助言を受けながら、アプリの企画・開発を体験します。高度な知識・技能を要求されるため、参加できるのは事前審査を通過した6校だけ。本校情報システム部は情報科学科3年の多田隆人さん、同2年の町田渉さん、稗田花林さん、渡邊晴美さんでチームを組み、aiboと一緒にスマホのすぐろくゲームを遊ぶアプリ「aiboard（アイボード）」を開発しました。

aiboardの遊び方は、スマホ上でサイコロを振ると、進んだマス目により「aiboとハイタッチしよう」「aiboに甘噛みしてもらおう」などのタスクを指定されます。うまく実行できないと、aiboは「すねて横を向く」など、表情豊かに反応します。ゲームを終えるとaiboから感謝のメッセージカードがもらえ、それをコンプリートする楽しみもあります。生徒たちは、「各種SNSから、aiboオーナーの皆さまの非常に深い“aibo愛”を感じました。aiboもきっと感謝の気持ちをaiboオーナーの皆さまに伝えたがっていると考え、アプリづくりに取り組みました」と開発の狙いを話しています。

最終プレゼンでは、開発部門の担当者や責任者らから、さまざまなアドバイスがもらえました。本校チームは、アプリの一般公開（今回は参加校中1校のみ）が決まっただけでなく、アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社からAWS賞も併せて授与され、「AWSのアーキテクチャに関しても、ベストプラクティスに則って堅実に実装しきっていた」と高く評価されました。

「この経験を生かし、今後も将来の夢であるエンジニアを目指して努力したい」と夢を語る生徒たちに対し、情報システム部顧問の辰巳良美教諭は「かなりレベルの高い内容でしたが、日々部活動でプログラミング技術の習得に努めたことが役立ちました。一般公開されることで、ものづくりの感動も学ぶことができました」と、頑張りをたたえています。



アプリ一般公開の栄誉に浴した高校情報システム部



フィーダーデュッセルドルフⅡ優勝の田中（WTT 提供）
フィーダーデュッセルドルフⅡ 男子シングルス優勝・田中佑汰（大学）

世界の舞台で活躍 学園の卓球選手

設置校の卓球選手が、今季も以下の WTT などの国際大会で優秀な成績を収めました。

【11月】ユーススターコンテンダー ノバ・デ・ガイア U19 男子シングルス 3 位・吉山僚一（高校）、U19 男子ダブルス 3 位・鈴木颯（高校）/ 吉山僚一【12月】世界ユース選手権チュニス大会 U-15 男子シングルス準優勝・吉山和希（中学）、U-19 男子ダブルス準優勝・鈴木颯、U-15 男子ダブルス準優勝・吉山和希、U-15 男子団体 3 位・持田陽向（中学）、吉山和希【2月】フィーダーデュッセルドルフⅡ 男子シングルス優勝・田中佑汰（大学）

チーム AI が帯同する RECARO RACING TEAM の GR86/BRZ Cup 今季全レースが終了

大学のチーム AI/ メディア情報研究会（顧問・鳥居一平情報科学科教授）に所属している総勢 90 人の学生が携わった、RECARO RACING TEAM の GR86/BRZ Cup の今季全レースが終了しました。GR86/BRZ Cup は、国内最大規模のワンメイクレース。学生たちは、自動車用シートメーカー RECARO 株式会社の RECARO RACING TEAM の全レースに帯同し、各レースのプロモーションビデオ制作や Youtube、Instagram など SNS へのアップに取り組みました。

カメラの知識、撮影技術、編集などが必須であり、制作の場を RECARO 株式会社に提供してもらって多くを学びました。

「何を伝えたいからこのカットが必要なのか」「この人物のこの表情にどんな意味があるのか」。常に考え、実際にコース内を歩き回って良い画角で撮影できるスポット



トを探しました。撮影する主題を引き立てるための背景やカメラワークに知恵を絞り、レースチームの状況や気持ちを感じながら、映像のコンセプトをイメージし、撮影・編集を行いました。その際は「カットを並べる順番、時系列順なのか、ドラマティックに演出するのか」「BGM を流す場合、曲調、テンポはコンセプトに対して適切か」「カットのつなぎ目のトランジションは激しくするのか落ち着いたものにするのか」などと意見を戦わせました。

シーズンの最後に、米国 RECARO から来日した社長・副社長に TeamAI の活動を報告するよう依頼を受けたため、滋賀県にある RECARO 株式会社本社でプレゼンを行い、学生たちの活動に満足していただきました。

TeamAI では研究活動として、筋電位、体圧分散、心理状態から検証し、シートがタイムアップに与える影響についても計測を続けています。

プロジェクト全体のリーダーを担当したメディア情報専攻 3 年の前口克稀さんは「活動を通して学んだことが、これから活かされることを確信しています」と振り返りました。新年度は同レースに加え、RECARO ラリーチームとも帯同する予定です。



クラブ表彰

学園は11月～3月にかけて、全国大会に出場の各クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長が「これを機に、さらにステップアップしてほしい」などと激励し、愛名会や高校同窓会、高校PTAからもお祝いがありました。

【11月10日の表彰】

▼大学フェンシング部

2022年度全日本学生フェンシング選手権大会

【11月11日の表彰】

▼高校吹奏楽部

第35回全日本マーチングコンテスト

【12月8日の表彰】

▼大学フェンシング部

第75回全日本フェンシング選手権大会（団体戦）

【12月20日の表彰】

▼高校ボウリング部

文部科学大臣杯第29回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会

▼高校バレーボール部

第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会

【1月31日の表彰】

▼高校将棋部

第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

▼高校競技スキー部

第72回全国高等学校スキー大会

第35回全国高等学校選抜スキー大会

▼中学スキー部

第60回全国中学校スキー大会（クロスカントリー）

【3月15日の表彰】

▼高校卓球部

第50回全国高等学校選抜卓球大会

▼高校フェンシング部

第47回全国高等学校選抜フェンシング大会

▼高校相撲部

令和4年度全国高等学校相撲選抜大会

▼高校ウェイトリフティング部

第38回全国高等学校ウェイトリフティング競技選抜大会

▼高校バドミントン部

第51回全国高等学校選抜バドミントン大会

▼高校ゴルフ部

2022年度全国高等学校ゴルフ選手権春季大会

▼高校メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2023 名古屋

▼中学卓球部

第24回全国中学選抜卓球大会

▼中学メカニカルアーツ部

ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2023 名古屋



11月10日の表彰



11月11日の表彰



12月8日の表彰



12月20日の表彰



1月31日の表彰



3月15日の表彰



滞空・定点回収で審査員特別賞を受けた今井さん（右）

種子島ロケットコンテストで審査員特別賞

第19回種子島ロケットコンテスト大会（宇宙航空研究開発機構などの実行委員会主催）は3月2～6日に種子島宇宙センター内で開催され、大学の文化系クラブであるASTRONのチームが審査員特別賞を受賞しました。

大会は、コロナ禍を超えて4年ぶりに種子島で実際にモデルロケットを打上げるコンテストとして実施されました。ASTRONから参加したチームのうち、ロケット部門の種目「滞空・定点回収」に出場した今井大河さん（電気学科1年）の飛行獣チームが、審査員特別賞であるプロダクト賞（三菱重工賞）を受賞しました。

「滞空・定点回収」は、いかに機体が滞空し、かつ発射地点付近に落下することができるかを競う部門で、今井さんは定点回収を重視して機体製作しました。一般的に使われるパラシュートでなく、空気抵抗の少ないストリーマ（帯状の吹き流し）を使用したほか、ストリーマを展開できるギリギリの大きさのボディーチューブを使用することなどによって、横風からの影響にも対策を施しました。

今井さんは「機体やプレゼンは先生や先輩方、サークルの仲間に手を貸してもらったおかげで創り上げることができました。製作面での緻密さを評価されプロダクト賞をいただきましたが、部門では入賞できませんでした。他団体との交流で得た知識や今回の経験を生かし、次回は部門優勝を目指します」と意欲的に話しています。

学生たちの課外活動を表彰

大学の課外活動で優秀な成績を収めた団体・個人（在学生）に対する令和4年度学生表彰の表彰式が3月24日、八草キャンパス愛和会館講堂で行われました。曾我部博之副学長が学生たちに表彰状・記念品を手渡し、努力をたたえました。

卒業生を含めたクラブ活動の表彰対象者は次の皆さんです。

●個人

▽競技スキー部

柳本理乃

FIS Freestyle World Cup 2023 アルプデュエズ大会 モーグル女子 5位

●団体

▽フェンシング部

濱中雅也・土井崇愛・江上大吾・山代屋和史

2022年度 全日本学生フェンシング選手権大会（第62回 全日本大学対抗選手権大会）第4位

第75回 全日本フェンシング選手権大会（団体戦）男子エペ ベスト8

▽洋弓部

普久原恵治・加茂裕人・栗田健聖・浅井大翔

2022年度東海学生アーチェリー連盟 王座出場校決定戦（本戦）2位

▽ASTRON（MMM）

中納航汰・牧田直樹・岩月誉

第18回種子島ロケットコンテスト大会 ロケット部門ペイロード有翼滞空種目 2位

▽ASTRON（AIT 航空）

中納航汰・青山凌大

第18回種子島ロケットコンテスト大会 ロケット部門ペイロード有翼滞空種目 3位